

## 令和2年度 第1回甲賀市図書館協議会会議録

1. 日 時：令和2年7月30日（木） 午後7時～午後9時10分

2. 場 所：甲南図書交流館 ゆめ工房

3. 出席者：【委員】 大西 正泰 澤 菜穂子 森口 衛 福井千恵子  
松本佐知子 山崎喜代美 中村ひろ子 山中 ルミ

【事務局】 奥田理事 杉本課長 岡崎参事 宮木補佐 香取館長  
篠原館長 奥山館長 片岡館長 今村館長

傍聴者なし

4. 次 第：（1）開会

（2）事務局紹介

（3）会長あいさつ

（4）議事

① 学校司書巡回事業について

② 令和元年度 甲賀市図書館活動報告について

③ 令和2年度 甲賀市図書館実施事業計画について

（5）その他 図書館サービスの制限について

（6）職務代理あいさつ

（7）閉会

5. 内 容

（1）開会

（2）事務局紹介

（3）会長あいさつ

最近、新型コロナウイルスについての感染者数などが毎日のように報道されている。このため、気持ちが落ち込んだり、不安になったりして、自分はどのようにしたらいいんだろうという思いになってきているのではないかと。

テレビや新聞を見ていると、いろいろな人が、様々なことを言っている。感染症について知りたいと思い本を予約し、受け取ることができた。3月から4月にかけて多くの図書館が完全に閉館していたが、甲賀市の図書館は、予約本を受け取ることができるなど、一部開放していただいていた。

過去の感染症について調べている中に、速水融という歴史学者が書かれた『日本を襲ったスペイン・インフルエンザ』という本があった。今から約100年前にスペイン風邪

が世界中で猛威を振るい、日本だけでも30万人から40万人の方が亡くなったことが書かれており、読んで思ったことは、「過去にも同じことがあった」ということだった。インフルエンザの原因がウイルスと分らなかった時代、人がどんどんと倒れ、肺炎にかかり死んでいった。そのころも、人々はマスク・手洗いをし、人込みに出ない、感染した人を隔離するなどといった対策で乗り切った。今も同じような状況であり、歴史は繰り返すことを感じ、科学が発達してきても基本の対策は同じであることが分かった。

本を読むということは、テレビを見たり、新聞を読んだりすることよりも伝わってくる。世の中でいろいろな意見が出て、どのようにしたらいいのか迷ったときには、過去にどんなことがあって、どんなことをやってきたかということを知ることが必要。その意味で図書館は、多くの資料をそろえていることに価値があって、いざというときに利用できる。

現在、図書館は滞在時間を30分としているが、短く感じるので、もう少し運用の仕方を考えていただきたい。

「正しく怖がれ」と言われるが、何が正しいのかということを考えてとき、過去の歴史などが書いてある本も一つの目安としてはどうか。

#### (4) 議事

##### ① 学校司書巡回について

事務局：「学校図書館図書整備等5か年計画」についての説明。

6月定例議会の一般質問に伴う「甲賀市子ども読書活動推進計画第3次計画」の見直しについての説明。

「学校司書巡回事業」について説明。

委員：学校図書館司書は、同じ学校に2週間に1度行っているのか。

事務局：例えば、土山中、水口小、綾野小、大原小と4校行ってもらっている場合は、1週間に1度は必ず司書が行っている状況になる。ところが、甲南中、信楽小、甲南第一小、小原小、朝宮小と5校行ってもらっている場合は、基本的に学校図書館司書は週4日の勤務となっているため、ここでいうと、甲南中、信楽小、甲南第一小は毎週巡回で行っているが、小原小と朝宮小については隔週ということになっている。ただ学校によっては、半日も良いので毎週来てほしいという要望もある。例えば、甲南第三小と多羅尾小については、半日ずつで毎週行っている。

委員：生徒数が少ない学校を隔週にしているのか。

事務局：それもあるが、貸出冊数やリニューアル等、書架の整理の関係もある。学校教育課で決めているが、学校図書館司書の意見もかなりしっかりと入れている。ベテランの方が多いため、この学校は毎週行かないと絶対に回らない、この学校は隔週でいけるが場合によっては入れ替え等を行いながら作業を進めるという形でやっている。必然的に図書館の利用人数によるが、司書と話をする中では、生徒数が少ないから隔週でいいということはない。子どもたち、先生たちの活動利用を

加味していくとこういう形になった。

委員：甲南第三小と多羅尾小は距離的に遠いが、近いところとセットにできないのか。

事務局：最初は隔週で行く予定だったが、司書と相談しながら決めている。多羅尾小は生徒数が少なく、図書主任が率先してやっており、書架の整理や貸出等については充分学校で回れる状況のため、アドバイザー的な立ち位置で行っている。甲南第三小については、生徒数は少ないが、図書が多いわりには図書室が狭いため、まだまだ配架についてもしっかりとできていない状況がある。司書の配架からやり直したいという思いと、学校の図書館を充実させたいという思いがある。前まで来ていた司書が辞めて、作業が途中になって難しいところを今年の司書が受け継いだこともあり、なかなか距離的なことだけでは簡単に決められない。先生方との信頼関係づくりが大切。同じ学校で司書をすることで、先生方や子どもたちとの関りを通して充実させたいという思いを司書が持っている。

委員：成果はなかなかすぐには出ないと思うが、必ず学校図書館司書が来て、整備されたことで、子どもたちの本に対する姿勢は変わってきたのか。

事務局：子どもたちはもともと、図書館を活用するのに抵抗がある子はあまりいないと思う。活用できるような場づくり、活用したいと思うような図書館経営だと思う。そのことを考えると、学校図書館司書がいることで、先生方の意識は間違いなく変わった。例えば国語の学習で、他のコメントの図書も読みたいと並行読書をするにあたって、自校の学校図書館だけで探していたところが、学校図書館司書がいることで、公立図書館の本を集めて授業に活用することで、子どもたちも自校にない本があるので一生懸命読む。そういう姿を見た先生方がこれって大事なことなのではと感じる。子どもたちのことを考えてくれる先生方が居て、その先生方と一緒に協働できる司書が居て、それを何とか作り上げたい。読書量だけでいうと貸出冊数は減っているが、授業の中での本と子どもたちの出会い、付き合っている量は増えているのではと思っている。

委員：読み聞かせは、学校図書館でしているのか。

事務局：学校図書館司書がする場合は、どちらかというクラスに出かけてすることが多い。給食後の休み時間も活用している。学校には、地域の方による図書ボランティアもいるが、昼休みにボランティアが図書館を使って読み聞かせをすることもあ

委員長：学校図書館から図書館への要望はあるか。

事務局：良くしてもらっているので、ありがとうございますと、まずは言いたい。学校図書館司書の色々な意見の中には、貸出冊数のこととか、それぞれの学校で同じ学習を同じ時期にしているため、又貸しではないが、違う学校に行く時もそのまま借りたいという意見がある。子どもたちが雑に扱ったり、無くなってしまうリスクもあり、管理がすごく難しいが、書籍を活用したいという思いもある。湖南省では研究所の中にコーディネートできる方がおり、学校からの要望を受けて公立図書館で探すなどコーディネートできる場所があるが、公立図書館と連携するためには、こちら側の体制も考えないといけない。

事務局：現在学校司書は6人で回ってもらっているが、国の学校図書館図書整備等5カ年計画では1.5校に1人ということになっている。そのまま当てはめると18人ということになり、これはいきなり財政的にも難しいという部分もあるが、甲賀市子ども読書活動推進計画第3次計画には、国の学校図書館整備5カ年計画について何も記載がないという指摘を議会でも受けており、今後同計画に学校図書館整備5カ年計画についての記載を明記していくことについて、みなさまのご意見を伺いたい。

委員：それは、学校司書を1.5校に1人とかいう数字的なことか。

事務局：直ちに具体的な数値をどうということではなくても、計画の中に学校司書の配置促進とかを明記していければと思う。

委員：書くなら具体的に数値目標とかを書いていただくのが一番いい。「努力する。」みたいな表現は避けていただくと、後からできたかどうかの評価もしやすくいい。

委員：学校司書と学校の契約期間は何年か。

事務局：今年度から会計年度任用職員制度が創設されており、任用期間は1年である。今年度は6人の公募枠に6人の応募があった。今後毎年面接をして雇用することになるが、同じ方が応募されその能力等が認められれば、継続して更新するということにもなる。

委員：リニューアルはそれぞれ学校のオリジナルのやり方をされているのか。書架の並び方やスペースはどうか。

事務局：書架の並び方とかは一般的なNDC（日本十進分類法）による並びとなるが、書籍の種類は学校によりバラバラなので、そこはそれぞれの実情により異なっている。大規模な改修となる場合は、図書館の図面から関係者で検討していくことになり、学校の要望に合わせつつ、将来的に公立図書館を活用できる力を育てることができる学校図書館を目指して実施している。

委員：説明を聞いて、学校図書館の実情を知りたくなった。できれば、リニューアルした学校図書館の見学会のようなものをお願いできないか。

事務局：昨年度大規模改修した希望ヶ丘小学校の図書館など、かなりきれいでいいかもしれない。

委員：過去のリニューアルの実績はどの程度か。

事務局：データを持ってこなかったが毎年2校ずつ実施しており、すでに半数以上の学校でリニューアルを終えている。甲賀市として熱心に取り組んでおり、リニューアル事業は継続して、数年後には全校で完了したい。

委員：子どもたちも本に興味を持ち、学校図書館にも来やすくなると思うので、頑張っていたきたい。

委員：ぜひとも見学会の機会を作ってほしい。平日昼間などの学校司書さんがいるところでやるのもいいと思う。

事務局：学校司書も意欲的なので、その機会を作っていきたい。

## ② 令和元年度 甲賀市図書館活動報告について

事務局：令和元年度 甲賀市図書館活動報告について説明

委員：北村基金による北村文庫の記述があったが、たくさん額を寄付いただき、もう長い間その基金を使っていると思うが、まだたくさん残っているのか。

事務局：来年、再来年にもなくなってしまう、ということはない。計画的に使用している。今後も活用させていただく予定である。

委員：一時ではなく、小出しで使っているということか。

事務局：そのとおりである。

委員：たいへんありがたいことだが、その後このように寄付をしてくれる方はおられるのか。

事務局：他の自治体でもあまり例をみない額であり、北村基金ほどの大きな額では寄付を受けていないが、例えば土山図書館では日之出水道機器株式会社より毎年一定額の寄付をいただいている。また、個人からも「いろいろお世話になったので、少額ですが図書館で活用してほしい」と寄付いただくことはある。

委員：20ページのデータで職員数をみると、平成30年度から令和元年度で3人ほど減っているが、減る原因というか、計画的に減らしているのか、ということか。

事務局：図書館にかぎらず、市全体としても、計画的な職員の適材適所の配置を行っている。もちろん職員数が増ければ負担は減るが、事業計画の中でも、より効率的な業務の方法を考えることで、できるかぎり少ない人数で運営することを目指しているためこの人数となった。市としてどうしても人数が必要な事業・部署が出てくる。例えば、今回の新型コロナウイルス感染拡大への対策が必要となると、どこかの部署から職員を異動させて配置するなど、市全体で調整するのが人事配置である。たしかに図書館としても負担が大きくなることもあるが、様々な事業を効率良く見直すことで、利用者へご迷惑がかからないようにしている。人数が少なくなった中で、貸出冊数が昨年度とほぼ同じだったことなどは、いろいろな形で効率化の成果を出せた指標とも考えている。

委員：1年で3人というのは、やはり多い気がする。移動図書館などいろいろな行事がある中で、3人減るということがどう影響するのか、図書館サービスの質が影響する数ではないかと考えて質問した。適材適所というのであれば、図書館には何人くらいが妥当なのか、という数値があると考え。それを下回っているというのであれば、何とか手当をしてほしい。図書館サービスの低下につながるのだから、そこはきちんと考えていただきたい。

事務局：そのことについては、意見いただいたとおり、本当にこの人数が適切であるのか、これからも検討課題としていく。

委員：他に質問があるか。

事務局：先に今年度の事業計画を報告し、あわせて質問をいただくこととしたい。

### ③ 令和2年度 甲賀市図書館実施事業計画について

事務局：令和2年度 甲賀市図書館実施事業計画について説明。

委員：おはなし会について、ボランティアはコロナで中止と聞いているが、職員によるおはなし会はどうか。

事務局：中止している。

小さいお子さんもおられることから慎重に対応しているところ。

委員：他のボランティアからどうなっているのかと聞かれるが、動向がわからないので答えようがなく困っている。

事務局：状況に応じ、定期的に連絡するようにする。

委員：ビブリオバトルもぜひ再開をお願いする。

事務局：承る。

委員：図書館利用が困難な人への支援とあるが、高齢者施設への宅配は要望のあったものに対応しているのか。

事務局：仰せのとおり。

今のところは、要望（需要）と実施（供給）バランスが取れており、継続している。方法については、施設の方と相談して実施している。

委員：30分以内利用について、コロナ禍で必要な対応として仕方ないのは解っているが、やはり淋しい気がするがどうか。

また、本がきれいか不安あるが、安心につながるアナウンスがあってもよい。

事務局：30分という時間については、県内図書館の状況もふまえた。県立図書館をはじめ、ほとんどの図書館で同様の対応をされている。

長居されたい方もおられるなかで、より安全な方法としている。

何よりも、図書館から感染患者を出してしまえば、ご利用いただけなくなってしまう。ご理解、ご協力願いたい。

## （5） その他

図書館サービスの制限について「図書館だより」を用いて説明

## （6） 職務代理あいさつ

今日の開催が心配であったが、分かりやすい説明でよかった。

自身も保育園におはなし会に行っており、8月末から再開予定をしているがどうなるか分からない状況。

本は心を慰めてくれるもの。

子どもたちやお年寄りも楽しみにされている。

これからも安全な運営に努めていただきたい。